

マダコ種苗生産に取り組み、多くの稚ダコができました（令和5年（2023））

令和4年（2022年）10月28日のトピックスにて、マダコ種苗生産に取り組み、稚ダコ1,000個体を生産したことを報告しました。

令和5年度（2023年）も、種苗生産に取り組みましたのでご報告します。

使用する水槽などは前回と同じですが、水槽数を2倍の4セット準備して、少しでも多くの稚ダコを生産できる体制を整えました。

令和5年6月9日に岡山県（共同研究機関の一つ）で得られたふ化ダコを譲り受け、4セットそれぞれ800個体（合計3,200個体）を収容し、生産を開始しました。

前回同様、生産期間中、ガザミ幼生を絶やすことなく給餌できたこと、飼育環境をよい状態で保てたことなどから、日に日に成長が見られました。飼育を始めて2週間経つと、稚ダコが水槽の壁面に付着し始め、その3日後、ほぼすべての稚ダコが壁面や底に付着しました。

付着が完了した稚ダコは、隙あらば壁面を登って、脱走を試みる様子がみられました（壁面を登って、水面から出てしまい、干からびてしまうので要注意です）。

稚ダコが小さな腕を伸ばして、壁面をよじ登る様子を見つけては水中に戻しつつ、25日間の飼育を終えて取上げたところ、合計2,604個体（平均生残率81.4%（最高で94.7%））を生産することができました。

前年（R4：68.1%）よりも平均生残率を上げることができ、多くの元気な稚ダコを得ることができました。生産した稚ダコは、引き続き飼育試験を行うとともに、共同研究を行っている他機関のマダコ研究に使用されました。

今後も、着実に、安定的な種苗生産ができるよう技術開発を行っていく予定です。

この研究は、国立研究開発法人生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行ったものです。



左：飼育水槽

右：取り上げた稚ダコ
（1マスが1cmを示す）



水槽壁面に付着した
稚ダコ（17日齢）

【生産担当者のお気に入り】



稚ダコと目が合う
（生産担当者の人差し指にくっついて
います。17日齢）



稚ダコのエサの取合い（28日齢）。
エサを給餌すると、つかんで離しません。

（文責 原 佐登子）